

令和4年度 研究紀要



東京都奉仕・ボランティア教育研究会

目 次

はじめに	1
令和4年度東京都教育委員会研究推進団体 研究計画書	2
令和4年度研修報告「人間と社会」の調査・研究から分かること	3
第46回全国高等学校総合文化祭東京大会報告	4
＜報告者＞	
東京都立上野高等学校統括校長	吉田 寿美
東京都立神代高等学校主任教諭	鯉渕 健太
東京都立上野高等学校主任教諭	今井 路子
東京都立田無高等学校校長	藤田 豊
東京都立赤羽北桜高等学校主幹教諭	正木 成昭
東京都立豊多摩高等学校教諭	井波 祐二
東京都立稔ヶ丘高等学校主幹教諭	石黒 康
【情報提供】	
東京都立練馬高等学校「ボランティアの日」における実施報告 《連携先》	16
ルーテル学院大学 市川 一宏 氏	
東京都都民生活部	
東京ボランティア・市民活動センター	
練馬ボランティア・地域福祉推進センター	
NECボッチャ部、NECマネジメントパ	
練馬区聴覚障害者協会	
手話サークル練馬こぶし会	

はじめに

東京都奉仕・ボランティア教育研究会 会長
東京都立上野高等学校長 吉田 寿美

令和4年8月2日（火）から同年8月4日（木）の3日間、東京都小金井市の「小金井宮地楽器ホール」を主会場として、第46回全国高等学校総合文化祭東京大会「ボランティア部門」が開催されました。

令和2年度から、本研究会は、東京大会「ボランティア部門」の大会の運営を研究会の活動の中心に据えました。研究会の委員4名が、ボランティア部門の委員会に所属しました。そして、東京都教育委員会の担当者の方々、本研究会以外の都立高校の教員委員の3名の方々、ボランティア部門生徒委員会に応募してきた50名近い生徒委員たちと、主催地東京として、どのようなおもてなしができるかを考えながら、大会運営の準備を進めてきました。大会運営の準備を止まらせないようにとの思いで、新型コロナウイルス感染症の拡大状況を鑑み、書面開催、オンライン開催、対面開催と、委員会の開催方式を工夫しました。さらに、大会当日は、本研究会の委員3名、各都立学校から参加した大会運営協力教員60名超えの方々が加わり、大会を運営しました。まさに、多くの方々の絆に支えられた「ボランティア部門」の大会となりました。

大会では、日々ボランティア活動に励んでいる全国各地から集まった60校の高校生が集まり、活動報告やフィールドワーク等を通して、お互いの活動の良さを学び合う交流と研修を行いました。活動報告では、全国の高校生の取組発表から、身近な課題を捉え、高校生のボランティア活動の可能性について考えました。フィールドワークでは、高校生が現場に赴き、考え感じたことを共有し、日ごろの活動に還元する取組を行いました。フィールドワークは、A「留学生への理解を深める」、B「障害者への理解を深める」、C「SNS教室などのデジタル活用支援に関わる活動を学ぶ」、D「フードバンク等の食に関わる活動を学ぶ」の4種類を企画し、各自が興味・関心をもったテーマの活動に参加しました。高校生だけではなく、小金井市を中心とした地域の方々とも、交流しました。

東京大会のテーマは、「江戸の街 光織りなす文化の花」でした。「ボランティア部門」の大会に関わった一人一人が、東京の地からボランティアの光を灯し合い、ボランティアの花を咲かせた3日間となりました。

今年度の本研究会の活動報告をまとめる研究紀要は、今夏に開催された第46回全国高等学校総合文化祭東京大会「ボランティア部門」の取組が中心になっています。最終日の国立青少年教育振興機構教育事業部企画課課長「桑山 宗大」氏による主催地発表・フィールドワークの指導講評の最後の言葉「皆さんの活躍を応援しています！ボランティアを楽しんで！！」のように、今後も、多くの高校生がボランティアの楽しさを伝えられる一助になれるよう、本研究会の活動を進めていきたいと考えております。

最後に、第46回全国高等学校総合文化祭東京大会「ボランティア部門」及び本研究会の活動に御協力いただきました多くの方々に厚く御礼を申し上げます。

<写真>

左：「ボランティア部門」
パンフレット

右：桑山宗大氏による
主催地発表・フィールドワークの指導講評



令和4年度東京都教育委員会研究推進団体 研究計画書

研究団体名	東京都奉仕・ボランティア教育研究会
研究のテーマ	生徒が主体的に行う社会貢献活動(総文祭、コロナ禍における特色ある活動)について
研究の 主な内容	1 総合文化祭東京大会成功に向け、研究会が全面的に支援を行い生徒主体の活動を作る 2 大学教員等の外部の力を生かした社会貢献活動に関する学習会の実施 3 コロナ禍における社会貢献活動の実践

回	実施日	研究会時間	内 容	会 場	指導主事 等の 派遣希望	指導主事 等の 挨拶希望 (○を記入)
1	5月26日 (木)	15時00分から 17時00分まで	今年度の研究の進め方等	上野高校		
2	6月12日 (日)	12時00分から 17時00分まで	月例会(1時間) 総文祭委員会(教員及び生徒)	上野高校		
3	6月26日 (日)	13時00分から 17時00分まで	総文祭委員会(教員及び生徒)	上野高校		
4	7月16日 (土)	13時00分から 17時00分まで	総文祭委員会(教員及び生徒)	東京都教職員研修センター111		
5	7月24日 (日)	13時00分から 17時00分まで	総文祭委員会(教員及び生徒)	上野高校		
6	7月30日 (土)	13時00分から 17時00分まで	総文祭委員会(教員及び生徒)	上野高校		
7-9	8月2日-4日 (火) - (木)	8時30分から 17時00分まで	総文祭当日(3日間)	小金井 宮地楽器ホール		
10	11月4日 (金)	15時00分から 17時00分まで	総合文化祭のまとめ 学習会に向けた協議 研究紀要に向けた協議	上野高校		
11	12月26日 (月)	13時00分から 17時00分まで	学習会に向けた協議 研究紀要に向けた協議	上野高校		
12	3月未定 ()	時 分から 時 分まで	今年度の振り返り、次年度の計画	上野高校		

◆年度当初の計画

総会	月 日 ()	時 分から 時 分まで				
発表会	12月26日 (月)	15時00分から 16時40分まで	大学教員等を招いた学習会	赤羽北桜高校		

*年度末、年度始の支援について、今年度時点での計画や希望等を御記入ください。
 (日時・会場が未定の場合、「未定」と御記入ください。「〇月頃」等でも結構です。)
 *「総会」、「発表会」等の表記は、適宜修正してください。

令和4年度研修報告「人間と社会」の調査研究から分かること ＜研修会報告＞

令和4年12月26日（月）実施

都立赤羽北桜高等学校にて、佛教大学社会学部准教授大東貢生先生をお招きして、平成19年度から東京都で導入された教科「奉仕」、平成24年度から教科「奉仕」を発展的に改変した教科「人間と社会」を長年調査・研究をしている研究者としての視点で、「人間と社会」の調査・研究から分かることと題した講演を頂いた。

大東先生の専門は、社会学（ジェンダー論、マイノリティ論の領域）で、差別がどのようにして起こるのかを研究されている中で、教科「奉仕」が人権教育としてのボランティア学習とどうつながるかに着目され今日に至っている。

本講演では、平成19年度以降の調査研究の中で、教育活動として全員対象に行われている社会貢献活動が、生徒の変容にどう結びついているか、「規範意識や公共心を有する人間」「他人に共感し、社会の一員であることを実感し、社会に役立つ喜びや勤労の大切さを知る人間」の育成に結び付いているかの報告を頂いた。

「人間と社会」でも言えることではあるが、体験活動（社会貢献活動や、インターンシップ等）を行う前の、事前学習（指導）を計画的に実施し体験活動を行い、その後、体験活動を振り返る、いわゆる事後学習（指導）を行うことで、生徒の変容がみとれるという報告を受けた。調査・研究を行う中で、事前学習や事後学習がおざなりになっていないかを見直す必要性の指摘もあった。一方で、体験活動では地域との連携を図る必要があることから、日ごろから地域連携を深める重要性を多くの教員が感じたことや、地域社会が今まで以上に“高校生を身近な存在”として捉えるようになったことは大きな変化である。特に、東日本大震災後は防災教育のニーズが高まる中で、より強固な地域連携を進めた学校や、地域があってこそその学校というWin-Winの取組もあった。

教科「人間と社会」に変更後は、先の防災教育の他に、キャリア教育を意識した取組に変化した学校もある中で、教科「奉仕」時代より調査・研究を進めていた学校については、大きな変化もなく、奉仕体験活動を継続して取り組んでおり、その中で、道德教育の視点も取り入れ活動を進めている。

コロナ禍の中での「人間と社会」における体験活動は、多くの学校で実施が困難となり、地域を調べ発表する活動へ変化をしているとのことであった。その中で、キーワードとなったのが“中間支援組織”である。中間支援組織の関係者が学校に赴き、学校と地域をつなぐパイプとして、人間と社会に関する単元の講話を行う、ワークショップを行うなど、工夫を凝らし人間と社会の目標を達成できるよう指導を行っている。コロナ禍で体験活動が困難な中、各学校で生徒の実態に即した学習マネジメントの確立の必要性も調査・研究の過程で明らかとなっている。「人間と社会」を指導する母体は分掌であったり、委員会であったり、学年であったりと、学校により様々である。各学校においては、「人間と社会」に関わる資料を残す、確実な引継ぎを行うなど、築き上げた資源を活用していく必要性を痛感した。

その後の意見交換等では、中間支援組織である、社会福祉協議会職員や、ボランティア・市民活動センター職員の都立学校との連携の実例や、教員からの悩みや質問などもあり、大東先生含め参加者同士で共有し講演会を終了した。

今後も、研究会として教員を対象とした研修会を企画運営していきたい。

東京都奉仕・ボランティア教育研究会主催
(東京都教育委員会が認定する研究団体です)

都立学校教員の方、教員を目指す方、
教育関係に興味のある方 等

「人間と社会」の調査・研究から分かること

新学習指導要領が、令和2年度より小学校で、令和3年度より中学校で全面実施され、令和4年度より高等学校では、年次進行で実施されています。なかでも、特別の教科「道徳」や「総合的な学習の時間」(小・中学校)、「総合的な探究の時間」(高等学校)における指導の充実が期待されており、あわせて、社会体験活動などの体験的な学びとおして、主体的・対話的で深い学びへと、児童生徒をいざなうことが推奨されています。

また、これからの社会をたくましく生きていくための必要な資質・能力の育成の方策の一環として、社会に関わった教育課程の実現を目指し、カリキュラム・マネジメント、コミュニティスクールやゲームとしての学校づくりが今後求められます。

そこで本研究会では、長年、ボランティア学習研究会で、都立高校における部活動教科「人間と社会」を研究している、佛教大学准教授大東貢生先生をお招きし「人間と社会」の事例等をご報告頂きます。後半は、質疑・応答を含め、ご参加頂いた皆様で情報交換の場を予定しております。

○日時
令和4年12月26日(月) 15:00~16:40
(受付14:45~)

○場所
東京都立赤羽北桜高等学校 3階大視聴覚室
(〒115-0056 東京都北区西が丘3-14-20)

○研修会タイムテーブル
15:00 開会挨拶
15:05 講演
(佛教大学准教授 大東 貢生 氏)

16:00 質疑・応答、情報交換等
16:40 閉会挨拶
17:00 会場撤収

参加費無料(都立学校の先生は「研修出張」です)

＜都立学校の先生方＞
新学習指導要領1年次(初任者)研修の課題別研修、中核教諭等資質向上研修の選択研修に参加します。

【申し込み・連絡先】メールにて申し込みください
東京都奉仕・ボランティア教育研究会事務局
東京都立赤羽北桜高等学校 正木 成昭
お問合せ電話 03-5948-4390
申し込み先メール houshibora@gmail.com



佛教大学 社会学部 准教授
大東 貢生 氏
専門は人権教育・ジェンダー研究。研究テーマは「教育機関と地域社会の連携による学びのコミュニティの創造」。2012年度から東京都立高校「奉仕」(現在の「人間と社会」)に関する調査研究に取り組む。

【会場案内図】



ボランティア部門の概要

総括担当 吉田 寿美（東京都立上野高等学校）

1 参加基準

内容	参加基準
フィールドワーク	参加する学校又は団体ごとに、全員参加。
活動報告会 (ステージ発表)	ボランティア活動に関する参加校の日頃の活動のステージでの発表。発表時間は、入替時間を含めて8分。団体で参加している場合は、団体で一つの発表。
展示	ボランティア活動に関する参加校の日頃の活動の展示による発表。団体で参加している場合は、団体で一つの発表。

2 参加校

60校（北海道・青森・福島・茨城・栃木・群馬・神奈川・東京・新潟・富山・石川・山梨・長野・愛知・兵庫・島根・岡山・広島・大分・宮崎・沖縄）

3 日程

内容		日程	時間	会場
展示		令和4年8月2日（火）	13：00 ～ 17：00	小金井 宮地楽器ホール
		令和4年8月3日（水）	9：00 ～ 17：00	
		令和4年8月4日（木）	9：00 ～ 10：30	
開会式		令和4年8月2日（火）	13：00 ～ 13：30	
活動報告会 （ステージ発表）			13：30 ～ 16：00	
生徒交流会			16：00 ～ 17：00	
F W	事前学習会		16：00 ～ 17：00	
	フィールドワーク	令和4年8月3日（水）	8：30 ～ 14：00	都内各会場
	まとめ・発表準備		14：00 ～ 17：00	
	主催地発表・フィールドワーク報告	令和4年8月4日（木）	9：00 ～ 11：00	小金井 宮地楽器ホール
	指導講評		11：00 ～ 12：00	
閉会式			12：00 ～ 12：30	

開会式（8月2日（火））

- 開式の言葉
- 委員長挨拶
- 生徒委員長挨拶
- 小金井市長西岡真一郎様より歓迎の言葉
小金井市教育委員会大熊雅士教育長による代読
- 御来賓の言葉
小金井市教育委員会教育長 大熊 雅士様
- 閉式の言葉

閉会式（8月4日（木））

- 開式の言葉
- 委員長挨拶
- 生徒委員長挨拶
- 閉式の言葉

フィールドワーク指導講評（8月4日（木））

国立青少年教育振興機構教育事業部企画課 課長 桑山 宗大 様

4 開催会場

「小金井宮地楽器ホール」

〒184-0004 東京都小金井市本町6-14-45 TEL 042-380-8077

5 交通アクセス

(1) 電車の場合

JR中央線「武蔵小金井駅」南口駅前

(2) バスの場合

小田急バス、関東バス、西武バス、
京王バス「武蔵小金井駅」下車徒歩1分



6 フィールドワーク概要

コース	コース内容
A	【留学生への理解を深める】 留学生（大学生等）との交流を通して、我が国で学んでいる留学生について理解を深める。
B	【障害者への理解を深める】 特別支援学校を訪問し、障害のある方々と「アート」を通じた交流活動を行う。作品を共同制作することを通して、共生社会について考える。
C	【SNS教室などのデジタル活用支援に関わる活動を学ぶ】 SNS教室等の必要性や地域での実施状況を学ぶとともに、本大会参加生徒が講師となってSNS教室等を開催し、デジタル活用支援について理解を深める。
D	【フードバンク等の食に関わる活動を学ぶ】 地域で実施されている食に関わる活動について学び、支援活動を体験することを通して、食品ロス等について理解を深める。

7 「ボランティア部門」運営関係者

東京都教育委員会より

全国高等学校総合文化祭担当課長	宮嶋 淳一
全国高等学校総合文化祭推進担当課長	田代 尚子
全国高等学校総合文化祭担当課長	山本 一之介
全国高等学校総合文化祭担当主任指導主事	堀口 俊英
全国高等学校総合文化祭担当統括指導主事	澁谷 創平
全国高等学校総合文化祭担当指導主事	神田 実季
全国高等学校総合文化祭担当指導主事	村上 千恵
全国高等学校総合文化祭担当部門専門官	金山 哲夫

都立学校より

東京都立上野高等学校統括校長	吉田 寿美	(委員長)
東京都立田無高等学校校長	藤田 豊	(副委員長)
東京都立稔ヶ丘高等学校主幹教諭	石黒 康	
東京都立赤羽北桜高等学校主幹教諭	正木 成昭	
東京都立上野高等学校主任教諭	今井 路子	
東京都立神代高等学校主任教諭	鯉渕 健太	
東京都立豊多摩高等学校教諭	井波 祐二	

生徒実行委員会45名

大会当日運営協力教員62名

その他、主催地の東京都、小金井市、小金井市教育委員会、小金井市社会福祉協議会、東京学芸大学（国際課）、都立武蔵台学園、イタル成城梅田英弥様等、大会開催にあたって、多くの方々の御協力をいただきました。心より感謝申し上げます。

各フィールドワークの報告

(1) コースA【留学生への理解を深める】

担当：鯉渕 健太（都立神代高等学校）

今井 路子（都立上野高等学校）

ア 概要

コースAでは、日本の大学で学んでいる外国人留学生の方々と交流活動を行います。当日は、「日本の高校生・大学生が外国人留学生に対してどのようなサポートができるか？」をテーマに、国立大学法人東京学芸大学で学んでいる外国人留学生の方々にお越しいただき、総合文化祭ボランティア部門に参加する皆さんと一緒にグループ協議・体験活動を行います。ぜひ、外国人留学生の方々との交流や体験活動を通して、留学生への理解を深めましょう！

イ 日程 令和4年8月3日(水)

8：30	宮地楽器ホール 大ホール集合
8：30～9：00	会場準備
9：00～9：45	挨拶・自己紹介
9：45～10：00	第一部 留学生への事前アンケートの結果紹介
10：00～12：00	第二部 グループ協議 テーマ「日本の高校生・大学生が外国人留学生に対してどのようなサポートができるか？」
12：00～12：10	休憩
12：10～13：00	第三部 体験活動（うちわ作り）
13：00～13：10	記念撮影
13：10～14：00	休憩・昼食
14：00～17：00	フィールドワークまとめ 翌日のフィールドワーク報告に向けてまとめを行う

ウ 活動場所

宮地楽器ホール 大ホール

エ 参加者の皆さんへ

○ 事前学習

- ・日本の大学で学んでいる外国人留学生に質問してみたいことをまとめておいてください。
- ・現在、日本にいる外国人留学生が「どんなことで困っているのか？」、又「(困っていることに対して)日本の高校生・大学生が外国人留学生に対して可能なサポート案」を考えてきてください。

○ 携行品

- ・健康観察票、飲み物（水筒）、昼食、筆記用具、常備薬、不織布マスク

○ 留意事項

- ・体調管理に十分留意してください。発熱等、体調に違和感がある場合は、参加を見合わせてください。
- ・不織布マスクを着用して御参加ください。

- ・熱中症対策のため、水分補給などに努めてください。

【活動の報告】

＜第一部 留学生への事前アンケートの結果紹介＞

留学生への理解を深める手がかりとするため、委員会生徒が作成した留学生対象の事前アンケートの結果を発表した。「なぜ留学をしようと思ったのか」「留学先を日本に選んだ理由」「留学前後での日本の印象の違い」「日本に来て良いと思ったところ／良くないと思ったところ」等に対して、留学生から様々なコメントが寄せられた。その中から、留学生が置かれている現状や困っている点を知ることができたが、特に「言語の壁」「文化面でのギャップ」を感じている留学生が多く、第二部につながる効果的なアンケートとなった。

＜第二部 グループ協議 テーマ「日本の高校生・大学生が外国人留学生に対してどのようなサポートができるか？」＞

第一部で実施した留学生への事前アンケートの結果を基に、第二部では委員会生徒が中心となり、全国から参加した高校生と留学生がグループ協議を行った。あるグループでは、日本を含む諸外国の差別意識や外国人に対する偏見を指摘し、そのような障壁を無くすために「地域における日本語教室の開設及び言語サポートのボランティア」「翻訳アプリの開発」「若い世代（特に10代）が海外に留学する機会を増やす」等の意見があがった。別のグループでは、日本人と外国人の価値観の相違（日常生活・食文化・言語の特性等）に触れ、特に若い世代同士のコミュニケーションの重要性を指摘した。具体的には、インスタグラムやその他 SNS を通じて、「日本の常識」や「日本独特の暗黙のルール」を伝える、といった意見があがった。全国から参加した高校生の一人は、「住んでいる地域では、留学生と交流する機会があまりないだけに、貴重な時間だった。してあげたいことを発見することができた」と感想を述べていた。

＜第三部 体験活動（うちわ作り）＞

第三部では、体験活動として、参加者全員で日本の伝統文化の一つである「うちわ作り」を行った。今回は、竹でできた骨組みに、こちらも日本の伝統文化の一つである藍染の布を貼り付けて、オリジナルのうちわを作成した。最初はどこから手を付けてよいか戸惑っていた参加者も、少しずつ「ここはどうやってやるの？」「これ貸してもらっていい？」「これどう思う？」といった声が聞こえ始め、色彩豊かな布を思い思いに切り貼りしながら次第に活発なコミュニケーションが見られるようになった。最後に、完成したうちわを持って記念撮影をして終了した。

＜活動の様子＞



(2) コースB【障害者への理解を深める】

担当：藤田 豊（都立田無高等学校）

ア 概要

障害がある方との「アート」を切り口にした交流活動を行います。東京都立武蔵台学園高等部の生徒さんと、生活介護サービスを受けているイタル成城の利用者さんとの交流を行います。総合文化祭に参加の皆さんは、グループに分かれて、武蔵台学園の生徒さんとは実際の共同作業、イタル成城の利用者さんとはオンライン（お絵描きチャットアプリ MagicalDraw を活用）を通じての共同作業にて、創作活動を行います。「花火」を共通テーマとして、それぞれのグループで創り上げた作品を、最終的に一つにまとめる予定です。

コロナ禍であっても、アートを通じた交流活動を進めたイタル成城の方をお招きして、活動に関するアドバイスをいただきます。総合文化祭に参加の皆さんには、今回の交流活動を体験して、地域に戻った際に活動するための引き出しの一つになることを願っています。

ぜひ、参加者全員で、アートを切り口にセッションを行うつもりで楽しみましょう！

イ 日程 令和4年8月3日（水）

8：30	武蔵小金井駅ロータリー集合
8：50～ 9：30	バス出発～東京都立武蔵台学園到着
9：40～11：30	アートを通じた交流 東京都立武蔵台学園の生徒の皆さんとの創作活動（リアル） イタル成城の利用者さんとの創作活動（オンライン）
11：30～12：00	体育館に集合し、作品仕上げと活動振り返り（感想共有）
12：00～12：10	片付け等
12：10～12：50	昼食・休憩
12：50～13：20	東京都立武蔵台学園 校舎・施設見学
13：30～14：00	バス出発～武蔵小金井駅ロータリー到着
14：00～17：00	フィールドワークまとめ 翌日のフィールドワーク報告にくけてまとめを行う

ウ 活動場所

東京都立武蔵台学園 〒183-0042 東京都府中市武蔵台2丁目8番28号

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、参加者以外の参観はできませんので御了承ください。

エ 参加者の皆さんへ

○ 事前学習

- ・皆さんがお住まいの地域において、コロナ禍でも行われている、人と人がつながる活動（障害がある方や高齢者、疾病のある方などとの交流等）の事例を調べておいてください。
- ・特別支援学校やフィールドワークに協力してくれるイタル成城について調べておいてください。

○ 携行品

- ・健康観察カード、飲み物（水筒）、昼食（会場周辺では、調達できません。予めご準備ください。）、自分で表現するために必要な画材（塗料類はこちらで用意します。）、雑巾、新聞紙（可能なら）、2Lのペットボトルを半分に切った物（塗料入れ）、汚れてもよい服装、筆記用具、タオル、常備薬

○ 留意事項

- ・フィールドワークには、ジャージ等の汚れても良い服装で参加してください。
- ・フィールドワークは、新しいつながりを作ってもらうために、違う学校の生徒との班になります。

【活動の報告】

ア アート交流となるまでの経緯

- ・令和3年11月のプレ大会で、立川ろう学校の生徒会による取組事例の報告がありました。参加生徒からは、障害のある方との交流に関する活動をしたいという意見がありました。
- ・令和4年2月に大きい4テーマの一つとして、障害のある方との交流が決まりました。
- ・生徒実行委員会において、「スポーツ交流、ゲーム交流、手話や点字を学ぶ、障害の有無に関わらず一緒に学べる環境について考える。」等の案が出る中、アートでの交流に決定しました。

イ 交流のねらい

- ・「作品の出来ではなく、作品を作る過程を参加者みんなが楽しむこと」
- ・「花火を描きながら、コミュニケーションをとること」としました。

ウ 交流概要

- ・90cm×90cmの板段ボールに思い思いの花火を描きながら交流を深めました。
- ・参加者を8班に分け、各班は高等学校生徒4名、特別支援学校生徒1名で構成しました。
- ・8班の内、1班は、イタル成城の利用者さんとのオンライン交流としました。

※交流前日、接し方や声のかけ方について、特別支援学校の先生からアドバイスをもらいました。

エ 活動を通して（生徒のまとめから）

率直な感想	・障害のある方との交流の形として、アートというものがあるのだと思った。 ・かかわり方を意識して、個性あふれる作品を作ることができて楽しかった。
学んだこと 考えたこと	・何か物を通すと、人とかかわりやすくなる。 ・アートは障害のあるなしに関わらず楽しめる。
今後、取り組みたいこと	・老人ホームでの交流会に絵での交流を取り入れたい。 ・障害のある方のことをもっと知りたい。
ボランティアとは？	・意識するだけでなく、行動すること。 ・人を笑顔にすること、誰かの役に立てること。

オ まとめ

コロナによる活動制限がある中、文通形式でアートのやり取りを行い、共同して作品を制作するイタル成城の方に助言をいただきながら、特別支援学校に通う生徒たちとのリアルでの交流と、イタル成城の利用者さんとのオンラインによる交流の2本立てで行いました。

周囲には、アートにより障害のある方との交流をした経験がある人がいない中、生徒たちは委員会で何度もイメージを話しながら、共通理解を深めました。

当日は、運営協力の先生方の力を借りながらも、主体的にかかわり、それぞれ個性的な作品をつくり上げることができました。終了後の、参加した生徒や実行委員の生徒の笑顔が、本フィールドワークの成功を表していると感じました。

		
全体で作品お披露目	オンラインによる交流の様子	リアルでの交流の様子

(3) コースC【SNS教室などのデジタル活用支援に関わる活動を学ぶ】

担当：井波 祐二（都立豊多摩高等学校）

正木 成昭（都立赤羽北桜高等学校）

ア 概要

地域の方々に向けて、デジタル活用の支援を行います。第一部は大人向けSNSの使い方講座、第二部は子供向け情報モラル教室を開催します。高校生が講師となって、デジタル活用で困っている方を支援し、SNSを使い始めた小学生・中学生に対して正しい利用法を楽しく学んでもらう機会をつくりまします。一般の方々を対象に呼び掛けて行うボランティアは、今までにない試みとなります。ぜひみんなで体験を楽しみましょう！

イ 日程 令和4年8月3日（水）

8：30	宮地楽器ホール 小ホール集合
8：30～ 9：30	会場準備
9：30～11：00	第一部 「大人向けSNSの使い方講座」 SNSアプリのインストール方法、使い方などについて受講者に レクチャーする
11：00～11：30	休憩・準備
11：30～12：30	第二部 「子供向け情報モラル講座」 SNSを活用したコミュニケーションに関する情報モラルクイズ、 ワークショップなどを行う
12：30～13：00	会場の片付け
13：00～14：00	昼食・休憩
14：00～17：00	フィールドワークまとめ 翌日のフィールドワーク報告にむけてまとめを行う

ウ 活動場所

宮地楽器ホール 小ホール

エ 参加者の皆さんへ

○ 事前学習

- ・皆さんがお住まいの地域において、SNS等の活用における課題や支援の事例を調べておいてください。
- ・SNS等や情報モラルに関する問題やトラブルにはどのようなものがあるのかについて調べておいてください。

○ 携行品

- ・健康観察票、飲み物（水筒）、昼食、筆記用具、常備薬、不織布マスク

○ 留意事項

- ・体調管理に十分留意してください。発熱等、体調に違和感がある場合は、参加を見合わせてください。
- ・不織布マスクを着用して御参加ください。
- ・熱中症対策のため、水分補給などに努めてください。



【活動の報告】

本フィールドワークには、東京都の実行委員生徒4名の他、全国の高校から16名の生徒が参加した。

実施前に、小金井市民向け小金井市報に「大人向けSNSの使い方講座」、「子供向け情報モラル講座」の受講者の募集を掲載した。結果、「大人向けSNSの使い方講座」は1名、「子供向け情報モラル講座」は0名の人数であったため、第二部の内容を「子供向け情報モラル講座」の企画・議論とし、SNSを活用したコミュニケーションに関する情報モラルを身に付けるための機会を3つのグループごとに話し合い、企画案を提案する活動とした。なお、ターゲットは小学生・中学生とした。

主な企画としては、SNSに関する〇×ゲーム、SNSに関する被害事例（映像や画像の活用）を通じたケースワーク、SNSに関する俳句を題材とした日めくりカレンダーの紹介があった。

第三部では、フィールドワークのまとめと同時並行に、情報モラル日めくりカレンダーを31日分の句で作成しようという、この場で決まった目標に向け、高校生同士が話し合いグループを作成し、31句を完成させた。成果物は、最終日の報告時に舞台上で紹介するとともに、東京都教育委員会で「情報モラル日めくりカレンダー」として、令和4年11月15日に東京都内の公立小中学校にデータとして配布された。

今回の活動を通して、参加した高校生からは、「SNSの良い点・悪い点の区別を知った。」「みんなとの意見交換の中で、SNSの怖さを改めて実感できた。」「高校生たちでもSNS講座を計画・実行できることを知ることができた。」という声と同時に、「地域との連携のきっかけとしたい。」「全国の皆さんと意見交換したことをヒントに情報モラル教室を行ってみたい。」という、今後の活動につながる前向きな意見もあった。

当初、計画していたフィールドワークと変更する内容となってしまったが、Cコースの全国の生徒が一体となり、情報モラル日めくりカレンダーを作成できたことは大きな成果物である。また、12月には、情報モラル日めくりカレンダーを活用した道徳の授業を実施した小学校もあり、小学生や、教職員から感謝の言葉が挙げられている。今後は、スマホミーティングのように、高校生が小学生や中学生に情報モラルを教える機会が増えていくことを期待したい。

<活動の様子>



↑左の作品を電子データ（右）に加工（東京都教育委員会作成）



(4) コースD【フードバンク等の食に関わる活動を学ぶ】

担当：石黒 康（都立稔ヶ丘高等学校）

ア 概要

本来食べられるのに捨てられてしまう食品ロスの問題が叫ばれる一方で、多くの人が貧困から十分な食事を摂れないでいるという状況が深刻になっています。今回ボランティア部門に参加する皆さんにも家庭で使いきれない食品を持ち寄っていただき、困っている方に届ける小金井市社会福祉協議会のフードドライブ事業に寄付する活動などを通して、食の問題に対して私たちにできることを一緒に考えていきましょう！

イ 日程 令和4年8月3日（水）

8：30	宮地楽器ホール 地下1階市民ギャラリー集合
8：30～ 9：30	会場準備
9：30～11：00	第一部 食品の仕分け作業と小金井フードドライブ事業のお話しを伺う
11：00～11：15	休憩
11：15～12：15	第二部 食品ロスを減らす工夫・アイデアを発表し合う
12：15～13：15	第三部 食品を小金井フードドライブ事業に寄付する
13：15～14：00	昼食・休憩
14：00～17：00	翌日のフィールドワーク報告にむけてまとめを行う

ウ 活動場所

宮地楽器ホールB1F市民ギャラリー

〒184-0004 東京都小金井市本町6-14-45（JR中央線「武蔵小金井駅」南口駅前）

TEL：042-380-8077 / FAX：042-380-8078

（寄贈場所）

社会福祉法人小金井市社会福祉協議会 〒184-0004 東京都小金井市本町5-36-17

TEL：042-387-0011 / FAX：042-386-1294

エ 参加者の皆さんへ

○ 事前学習

- ・食品ロスを減らす工夫やアイデアを考えてまとめてきてください。参加11団体がそれぞれ5分間で発表し合って共有します。発表形態は問いませんが、出された内容を持ち帰って実践につなげられるよう、必要に応じて配付資料をご用意ください。その場合、資料は60部お願いします。
- ・寄付する食品をお持ちください。寄付はボランティア部門全体にお願いしています。食品の条件などはそちらをご覧ください。

※郵送で受け取ることができません。8月2日（火）または3日（水）にご持参できる範囲でお願いします。

○ 携行品

- ・健康観察カード、飲み物（水筒）、筆記用具、マスク
- ・昼食（事前におもてなし弁当を注文されている方は、当日の指示に従い、代金をお支払いの上、お弁当をお受け取りください。都合で注文をされていない方は、ホール周辺にて購入することができます。詳細は、1日目にご案内いたします。）

○ 留意事項

- ・体調管理に十分留意してください。発熱等、体調に違和感がある場合は、参加を見合わせてください。

【活動の報告】

フィールドワークDコース「フードバンク等の食に関わる活動を学ぶ」では、12名の生徒部門別委員が企画・運営を行い、全国からの参加者20名とともにワークショップを行いました。

第一部では、参加者にご家庭で余った食品を持ち寄るお願いをして集まったおよそ60kgの食品を、小金井ボランティア・市民活動センターの嶋田直人氏のご指導で主食、缶詰類、レトルト食品などカテゴリー別に賞味期限を確認しながら仕分けし、小金井市社会福祉協議会に段ボール9箱分の食品を寄付しました。併せて小金井フードドライブ事業について嶋田氏からお話を伺い、特にこの2年間、新型コロナウイルス感染症の関係でアルバイトを減らされた学生の需要も高まり、食品を届けているなど、生活困窮者への食糧支援の現状について学びました。

第二部では、東京を含め参加した9団体から食品ロスを減らす工夫やアイデアを発表しました。東京の生徒部門別委員からは調理の際に食品ロスを減らす工夫として「スイカの皮の漬物」「キャベツの外葉の高菜漬け風」など9種類のレシピを紹介し好評でした。印象に残ったのは岡山県から参加した高校の「郷土料理とんこふな飯」を復活させる活動として、授業で試作を繰り返し、業者の協力でお弁当として商品化、「守ろう環境・無くそう食品ロス」と銘打って販売した活動が紹介されました。また、長野県の高校からは「信州の文化である“干す”や“漬ける”など長期の保存方法を知る」という発表があり、郷土料理にはその土地の食品を無駄なく利用する知恵が詰まっていることをあらためて学んだ発表でした。

昼食休憩の後は「小金井フードドライブ事業に学ぶ」班と「食品ロスを減らす工夫・アイデア」班の2グループに分かれ、翌日の全体会の発表に向けてまとめを行いました。それぞれがワークシートにメモした内容をもとに学んだことを付箋に書いて模造紙に貼り、お互いに発表し合って共有しました。それらをいくつかのポイントにまとめた内容をパソコンの得意な生徒がパワーポイントで発表できるように準備し、発表者を決めて模擬発表、更に改善点を出し合うなど、活発な活動でした。3時間の活動があっという間に過ぎ、時間が足りないほどでした。

大会後、8月末に最後の部門別委員会が行われ、全員が大会を振り返って一言ずつ話した際、多くの生徒が全国の高校生との交流が貴重な体験になったことを話していました。フィールドワークの進行を企画する準備期間、Dコースの生徒部門別委員の皆さんは、全国の高校生との活動を通していかに交流を深められるかを常に考えてくれていました。ボランティアをすること自体初めてという生徒がほとんどでしたが、人と交流すること、協力することの大切さをしっかり押さえていると感じました。そして大会当日はその思いが結実し、充実した活動で終えることができたのだと思います。そんな頼もしい生徒の皆さんが、この経験をこれからどう生かしていくのかが大変楽しみです。

<活動の様子>



賞味期限を確認しながら仕分けに入る



食品を小金井市社会福祉協議会に寄付



報告に向けた話し合いの様子

第46回全国高等学校総合文化祭東京大会「ボランティア部門」 生徒部門別委員会参加生徒のアンケート

東京都奉仕・ボランティア研究会では、約2年間にわたり「総合文化祭東京大会ボランティア部門」の生徒実行委員会に関わった生徒31名に以下のアンケートを実施した。このアンケートは、総合文化祭が終わった後の最後の実行委員会での声である。

- Q1 部門別委員会「ボランティア部門」に参加しようと思った動機（記述）
- Q2 約2年間にわたり、フィールドワークの企画・準備・運営に関わってきましたが、関わってみて率直な感想を記す（記述）
- Q3 今回の、「とうきょう総文2022」の部門別委員会に参加して、自分が変わったこと、参加して良かったことがありましたら、理由とともに記す（記述）
- Q4 部門別委員会に参加して良かったか（以下、選択）
☐ とても良かった ☐ まあまあ良かった ☐ あまり良くなかった ☐ 良くなかった

＜集計結果＞ ●は同様の回答数を示す 一部、重複回答有

Q1 参加のきっかけ

- ・進学内申、受験のため ●●●●
- ・興味があった ●●●●●●●●●●
- ・友人の誘い ●●●●●●●
- ・学校の案内を見て ●●●●●●
- ・様々な人たちと交流できる ●●●●●
- ・新しいことにチャレンジするため ●●●●
- ・視野が広がり成長できる ●
- ・空いた時間を有効的に活用 ●



都内公立小・中学校に配布された

Q2 フィールドワークの企画・準備・運営の感想

- ・うまくいかなかったこともあったが、先生や他の仲間のおかげで楽しくできた。 ●
- ・何も分からなくても話し合いを重ねることである程度の準備はできると知れた。 ●
- ・「やる意味があるか」と疑問に思ったことも多々あったが、全て意味があった。 ●
- ・うまく説明できるか不安であったが、成功できてよかった。楽しかった。 ●
- ・他の人の意見を聞くことで、自分自身の視野が広がった。 ●●●●●
- ・体験本番で他県の生徒と一緒に活動ができたことが一番印象的であった。 ●●●●
- ・「食」について、多くのことを知ることができた。フードロスをなくすための工夫として、自分が知らないアイデアがたくさんあり、刺激的であった。 ●
- ・緊張感や責任感をもって活動ができた。 ●●●●
- ・人が集まらなかったり、係が決まらなかったりしたが本番が成功してよかった。 ●
- ・当日までの約2年間、不安が多くあったが、素敵な総文祭になりました。 ●
- ・人前で話すことが苦手であったが、大会当日、人前で話す自分がいて自信になった。 ●
- ・無駄な時間があったので、時間を有効的に使うべきだと感じた。生徒の企画感をもう少し出していきたかったが、楽しく終えることができた。 ●
- ・大会を運営していく難しさを知った。 ●

- ・自分たちで話し合っていたことが形になってうれしかった。 ●
- ・先生のサポートもあり、成功できてよかった。生徒実行委員会同士でも仲良くなれた。 ●
- ・SNSに興味をもつ人が少ないことに衝撃だった。何か月もかけて考えたことを白紙に戻さなければいけない時は茫然とした。 ● ⇒大会後（府中試験場での免許更新で武蔵小金井駅南口をおりたときに）、間隣に毎日開催されるSNS教室があること、駅構内にも同様の毎日開催されるSNS教室があることに気付きました。そのことが大きく影響していたと思います。事前に知っていたら良かったです。
- ・自ら意見が言えるようになり、成長できた。 ●
- ・楽しく、様々な人たちと関わってよかった。 ●
- ・ボランティアの概念が変わった充実した2年間であった。 ●

Q 3 自分自身の変容等

- ・誰かのために動くことが楽しいことだとは思わなかったのを学んだ。 ●
- ・他校との交流の場が無かったので、交流ができて良かった。 ●●●●●●●●●●
- ・他で実施されているプロジェクトなどに参加するようになった。 ●
- ・フィールドワークのテーマに興味や関心を高くもった。 ●●
- ・今後も、ボランティア活動を続けていきたいと強く思った。 ●●●
- ・たくさんの方がいれば、それだけ考え方が学べるいい機会となった。 ●
- ・自分から意見が言えなかったが、委員会を通して意見が言えるまで成長した。 ●●●●
- ・全国の人たちと交流ができたことが新鮮で、勉強になった。 ●●●
- ・積極性に欠けていたが、積極的に関わっていくことの大切さを学んだ。 ●●●
- ・人前に立って発表することが苦手であったが、この活動を通し自信がついた。 ●●●
- ・高校生活の思い出の1ページに刻まれた。 ●
- ・本当に楽しかった。 ●●●



Q 4 参加して良かったか

とても良かった…28 まあまあ良かった…3

《研究会としての考察》

公立・私立学校計 28 校の希望生徒が集った実行委員会であった。プレ大会までの会議は、新型コロナウイルス感染症対策として、オンラインによる会議が主であり、対面による会議が本格的になったのも令和 4（2022）年 4 月からであった。多くの生徒が複数回答しているキーワードとして「他校との交流、仲間ができた、積極的になった」であろう。活動を行うにあたってのきっかけが様々ある中で、この活動を 2 年間継続できた生徒の多くは、生徒実行委員会での学びや交流が楽しみの一つとなっていたと推察できる。一つの成果として「情報モラル日めくりカレンダー」を作り、都内の小中学校へ提供することもできた。

一方で本研究会が示す生徒部門別委員会のレガシーとして、本研究会でも連携のある、東京ボランティア・市民活動センターが実施している中高生グループ「V I O L E T !」への参加を勧めている。現に複数名の生徒が、自主的に参加をするようになっている。

今回、アンケートをとった 31 名の生徒全員が、生徒部門別委員会に参加して良かったと回答していることから、この生徒実行委員会是有終の美で終わることができたと考えている。

概要

- 日 時 12月22日（木） 8：40～10：20 ■ 場 所 都立練馬高等学校 体育館
- 経 緯 練馬高校では、毎年「ボランティアの日」として全校生徒約700名にボランティアに関する講演を実施
ルーテル学院大学 市川先生より依頼を受け、他つながりのある団体とともに企画

コンセプト

1. 当事者の方々から思いを直接聞き、ボランティア活動をしている方の思いを知るとともに、手話やボッチャの意味を理解してもらいたい
2. 決して希望を失わず、明日に向かって、共に一歩一歩、歩いていく力を育てたい
3. それぞれの可能性を考え、活動をしてみたいという気持ちになってもらいたい

次第

それぞれの立場から講演やワークショップを行い、「ボランティア活動とは何か」を学んでもらう

1. 私にとってのボランティア活動（ルーテル学院大学：市川）
2. ボッチャ体験（NECボッチャ部・NECマネジメントパートナー：平野）
3. 東京都がめざすこと（ボランティアのチカラ）（東京都：村田）
4. 多様なボランティア活動（東京ボランティア・市民活動センター：熊谷）
5. 手話体験（練馬ボランティア・地域福祉推進センター：吉田、
練馬区聴覚障害者協会：目黒、手話サークル練馬こぶし会：小川・渡邊）
6. 最後に（ルーテル学院大学：市川）

※ 敬称略



実施の様子



市川先生講演。
途中から生徒たちの中に入って、熱く思いを語った。



ボッチャ体験。平野さんとボランティア部で模擬試合。
平野さんの妙技に拍手が起こった。



東京都（村田）講演。しっかり聴いていただき、FC
東京や長友選手の話には生徒からアクションも。



手話体験。手話の意義のお話と挨拶の練習から、
生徒たちとともにメッセージの手話訳を实践。



手話体験について、生徒たちは特に熱心に聞き入り、
周囲の友達と話したり見せ合ったり。



最後に講師・関係者一堂に対して生徒会の皆さん
から感謝の言葉が送られた。

説明資料

<4. 多様なボランティア活動>



<5. 手話体験>



生徒からの感想

◆ ボランティア活動の幅広さや魅力を学びきっかけになった

- ・ ボランティア活動は自分の趣味などを生かすボランティアなど色んな種類があることを知れてよかった、楽しそうだった。
- ・ 私は日頃ソフトテニス部の活動で学校奉仕ということで挨拶運動やお掃除など多くのことを学校内でやっていましたが、学校外東京などでも多くの活動があるということを改めて知ることができました。
- ・ ボランティアというのが自分が思ってたより多くのものがあり、身近なものなんだと知ることが出来た。
- ・ ボランティアは、している側も自分のためになると知った。
- ・ 私も中学の時にボランティア活動をしたことがありますが、やっぱり1回目は学校周りのごみ拾いから始まりました。それからたくさんボランティア活動に積極に取り組むいろんな人とたくさん関わりました。今回の話を聞いて、確かにたくさんの人と関わることで近所の人と関わりが深くなったりいろんなことを学べたと思います。
- ・ ボランティア、と聞いてもゴミ拾いぐらいしか思い浮かばなくて、部活とかじゃないと色んなことできないと思っていたのですが、それが大間違いだったことを知りました。それぞれ個人や団体のボランティアが個々にあって、それが様々な人を救い、助け、自分を成長させるものだと言うことがとてもよくわかりました。
- ・ ボッチャは健常者、障害者誰でも出来るスポーツであり、何も関係なくお互いが楽しめてとてもいいなと思った。
- ・ 手話はあまり身近ではなかったが、今回目の前で講演をしてもらったことで手話自体があまり難しくない手段だとよくわかった。今までは筆談くらいしか思いつかなかったけど、手話自体も自分が覚えようと思えばやれることなので興味が湧いた。

◆ 今後の進路を考えるきっかけになった

- ・ 今回ボランティアや障がいを持ってる方のお話を聞き、今後大学で特別支援教育など福祉などについて力を入れて学んでいきたいと考えていたのでとても良い機会でした。

生徒からの感想

◆ モチベーションのきっかけになった

- ・ 今まで小学校中学校でもボランティア活動はしていたけど、なんの意味があるのか考えずにただやっているだけだったけど、今日お話を聞いてもっと楽しく色々なボランティア活動をしたいと思いました。
- ・ ボランティアをやってみようとは思っていましたが「自分にはどうせ出来ない」と最初の1歩が踏み出せなかった中、この講話を聞いて多様なボランティア活動の中から私でも何か人の役に立てるような内容のものがあるのではないかと思います。
- ・ 積極的という言葉はなかなか厳しいのですが、勇気を出してみるのもひとつのボランティアだと考え、挑戦していこうと思います。
- ・ 私ボランティアをしたことがあって、最初は不安だったり、緊張したりしてたけどやってみたらめっちゃめっちゃ楽しかったので、その楽しさを周りの人にも発信して行ける立場になりたいなと思いました！
- ・ 私は今ボランティア部でボランティア活動させて頂いています。最初は面倒くさそうとか、休みの日までやりたくないとか、そんなネガティブなイメージが多かったのですが、参加してみると結構楽しかったり、面白い話が聞けたりと、思っていたより楽しいことが多く、とても自分にとっていい経験になってると思います。私もボランティアの楽しさや面白さを伝えられるよう、他にも色々なボランティア活動に参加してみたいです。
- ・ 東京都で「やさしい日本語」をやっていることを知れて、自分も外国の人などにやれる様にしようと思いました。
- ・ 東京ボランティアレガシーネットワークに載っていた体験談では「初めての参加だったが共同者の方と楽しくお話をできて安心して参加できた」「都外から来てる方とも交流出来た」「参加も退会も自由、好きな時に参加してOK」など気軽に参加しつつ普段出会うことがないような方々とも交流を楽しめる様な意見を見て自分も参加してみたくなった。
- ・ バイト先に来る常連の3～4名のお客様が耳の聞こえないお客者だったので対応する際にどういう対応をされたら嬉しくてどういう対応をしたら失礼になるのかいつも悩んでいたのですが、お話を聞いてまずはありがとうございますの手話を覚えてみるのもいいかもしれないと思いました。失礼かなと悩んでいた現物を見せて表現することも失礼ではないと知れて本当に良かったです。

生徒からの感想

◆ 講演者への感謝の思い

- ・ 色々な人が来て、たくさんの出会いと経験を貰った。
- ・ 今日はボランティア部の仕事で、講師の方々と朝から一緒にさせていただいた。普段部活動と一緒に活動してくださっている方にも会えて、緊張する中だったがとても楽しめた。市川さんのお話を聞いて、市川さんは出会いをととても大切にしているのだなと感じ、なんだか嬉しく感じた。学校で行われる行事やイベント以外にも、ボランティアをしてくれる人が増えてくれたら良いなと思いつつ、自分ももっと周りに目を向けられるように精進しようと思った。ボランティアに関して知識を得られるのと同時に、成長できる場を設けてくれた先生方にも本当に感謝したい。
- ほかにも、ポッチャや手話体験など個別プログラムに対する感想が多数寄せられた
- 練馬高校講演担当者からも、『生徒、教員ともに「とてもよかった」という声が多かった。生徒の態度について評価する教員も多く、事前の打合せで心配していたことは杞憂に終わったようだ。』と、大好評の声を聞くことができた

- 多様な団体が様々な講演等を行ったことで、多方面から生徒の興味・関心を引くことができた
- 学生にボランティア活動を知ってもらうだけではなく、講演者同士のつながりも生まれた

令和４年度東京都奉仕・ボランティア教育研究会会員

役職等	氏 名	所 属	備 考
会 長	吉 田 寿 美	東京都立上野高等学校	統括校長
副会長	藤 田 豊	東京都立田無高等学校	校長
副会長	石 井 久美子	東京都立向丘高等学校	副校長
	富 川 麗 子	東京都立東村山高等学校	統括校長
	小城原 友 子	東京都立田園調布高等学校	副校長
	神 谷 画 歩	東京都立八王子桑志高等学校	副校長
	鯉 渕 健 太	東京都立神代高等学校	
	武 藏 史 朗	東京都立赤羽北桜高等学校	
	櫻 井 滉 輔	東京都立白鷗高等学校	
	佐々木 彬 人	東京都教職員研修センター	
	伏 見 明	都立学校教育部特別支援教育課	
事務局長	正 木 成 昭	東京都立赤羽北桜高等学校	
会計・監査	板 垣 慶 樹	東京都立王子総合高等学校	
大学関係者	大 束 貢 生	佛教大学社会学部	准教授

東京都奉仕・ボランティア教育研究会 令和４年度 研究紀要

令和５年３月発行

編集・発行 東京都奉仕・ボランティア教育研究会
事務局 東京都立赤羽北桜高等学校内
電話番号 ０３（５９４８）４３９０

印刷所 有限会社福本印刷所
電話番号 ０３（３６２０）４６２９

